

2024

7

JULY

Vol.93

Produce by
Osaka Circular Resource Association

Clean Life

クリーン
ライフ



株式会社浜田
京都PVリサイクルセンター

TOPICS

- ①中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について
- ②デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について
- ③特定家庭用機器再商品化法施行令の一部改正について



公益社団法人 大阪府産業資源循環協会

OSK

廃棄物 管理士 講習会

環境省認定 講習会



本講習会は環境教育等促進法に基づく「人材認定等事業」に登録されています。

受講対象

産業廃棄物の処理を委託又は受託し、適正に管理していくために必要な法的知識を習得したいと考えている方等

開催期日

開催期日		受講日数	定員
2024年	7月26日(金)	1日	60名
	9月3日(火)	1日	60名
	10月25日(金)	1日	60名
	12月4日(水)	1日	60名
2025年	1月24日(金)	1日	60名
	3月14日(金)	1日	60名

受講料

15,400円(資料代/消費税込み)

開催場所

国民會館 武藤記念ホール

〒540-0008
大阪市中央区大手前2-1-2 国民會館大阪城ビル12階
TEL 06-6941-2433



○地下鉄天満橋駅3番出口から徒歩3分
○京阪電車天満橋駅14番出口から徒歩6分

受講のメリット

- ①本講習会の修了者には、公益社団法人大阪府産業資源循環協会が認定する「**廃棄物管理士**」の資格が付与されます。
なお、資格の有効期間は5年です。
- ②本講習会の修了者は、**堺市循環型社会形成推進条例**に基づく「**産業廃棄物管理責任者**」等として従事することが可能になります。
- ③本講習会の修了証は、大阪府における**産業廃棄物収集運搬業の許可を更新申請するための修了証**等として、ご利用いただけます(法人の場合は、原則として役員等が修了したものが対象です)。
- ④本講習会の受講者は、継続学習制度(CPDS)を利用することにより、多くの行政機関等でCPDSの点数(7ユニット)が行政手続きの技術評価項目としてご利用いただけます。

実施機関

公益社団法人 大阪府産業資源循環協会

〒540-0011 大阪市中央区農人橋1-1-22(大江ビル3階)

後援

大阪府

TEL 06-6943-4016

FAX 06-6942-5314

C O N T E N T S

トピックス●

4

- 循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について
(令和6年3月29日環循適発第24032920号)
- 中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について
(令和6年3月29日環循適発第24032923号)
- デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について
(令和6年3月29日環循適発第24032929号・環循規発第2403296号)
- 「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に伴い排出される廃棄物の処理について(通知)」の一部改正について
(令和6年4月1日環循適発第2404019号・環循規発第2404012号)
- 特定家庭用機器再商品化法施行令の一部改正について
(令和6年4月1日環循総発第24040111号)
- 特定家庭用機器一般廃棄物及び特定家庭用機器産業廃棄物の再生又は処分の方法として環境大臣が定める方法の一部改正について
(令和6年4月1日環循適発第24040113号・環循規発第24040111号)

事業報告●

6

- 協会の活動
- 協会の会議
- 他団体会議等への出席

クローズアップ①● 各種会長表彰受賞者・受賞事業所のご紹介

10

クローズアップ②● 公益社団法人全国産業資源循環連合会各種会長表彰受賞者・受賞事業所のご紹介

12

クローズアップ③● 産業廃棄物処理における脱炭素に向けた取組調査

13

メールマガジン「Clean Life オンライン」●

14

廃棄物処理先進事例調査●

16

- 第39回 株式会社グリーン ブルーエコノミー研究所
- 第40回 UDトラックス株式会社 UDエクスペリエンスセンター

新規入会会員紹介・会員メリットのご紹介●

28

会員紹介● 株式会社浜田 京都PVリサイクルセンター

30

今後のスケジュール●

35

バックナンバーのご案内●

36

- Clean Life
- 廃棄物法制等普及促進シリーズ
- よくわかるシリーズ

編集後記●

38

表紙写真：株式会社浜田 京都PVリサイクルセンター
〒614-8121 京都府八幡市下奈良小宮4-2

TOPICS

1

**循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について
(令和6年3月29日環循適発第24032920号)**

概要

①循環型社会形成推進交付金、②廃棄物処理施設整備交付金（大規模災害に備えた廃棄物処理体制検討・拠点整備事業）、③二酸化炭素排出抑制対策交付金（先進的設備導入推進事業）、④二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金（廃棄物処理施設を核とした地域循環共生圏構築促進事業）について、交付対象となる一般廃棄物焼却施設の整備規模の算定にあたり令和10年度以降に新たに着工する事業や令和10年度以前に着工する事業であって令和7年度～令和9年度において所定の交付を受けるものの取扱いを変更する旨と変更の内容が示されています。



通知本文

2

**中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について
(令和6年3月29日環循適発第24032923号)**

概要

将来にわたり持続可能な一般廃棄物の適正処理を確保し、同時に脱炭素も推進していくために、改めて、現在と将来の社会情勢等を踏まえ、中長期的な視点で安定的かつ効率的な廃棄物処理体制のあり方を検討することが必要となってくることから、都道府県が市町村と連携し、持続可能な適正処理の確保に向けた長期的なごみ処理の広域化やごみ処理施設の集約化に関する計画を策定し、これに基づき安定的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築を推進する場合の留意事項が示されています。



通知本文

3

**デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について
(令和6年3月29日環循適発第24032929号・環循規発第2403296号)**

概要

令和5年3月31日に発出され、既に本誌でも紹介している「デジタル原則の廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について（通知）」（環循適発第23033125号・環循規発第23033110号環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長・廃棄物規制課長通知）ですが、その後、関係法令の改正等を踏まえ、新たに解釈の明確化を図るべき事項等が示されています。



通知本文

4

**「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に伴い排出される廃棄物の処理について（通知）」の一部改正について
（令和6年4月1日環循適発第2404019号・環循規発第2404012号）**

概要

新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種において、これに伴って排出される廃棄物の取扱いについては、令和3年4月2日に発出され、既に本誌でも紹介している「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に伴い排出される廃棄物の処理について（通知）」（環循適発第2104021号・環循規発第2104021号環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長・廃棄物規制課長通知）により示されていたところですが、令和6年3月31日をもって、新型コロナウイルス感染症を、「予防接種法」（昭和23年法律第68号）に基づく特例臨時接種の対象とすることが終了したことを受け、当該通知を改正する旨と改正の内容が示されています。



通知本文

5

**特定家庭用機器再商品化法施行令の一部改正について
（令和6年4月1日環循総発第24040111号）**

概要

中央環境審議会・産業構造審議会において取りまとめられた「家電リサイクル制度の施行状況の評価・検討について」を踏まえ、特定家庭用機器廃棄物の適正な処理や資源の有効な利用を一層促進するため、有機エレクトロルミネセンス式テレビジョン受信機（電源として一次電池又は蓄電池を使用しないものに限り、建築物に組み込むことができるように設計したものを除く。）が特定家庭用機器に追加されたことが示されています。



通知本文

6

**特定家庭用機器一般廃棄物及び特定家庭用機器産業廃棄物の再生又は処分の方法として環境大臣が定める方法の一部改正について
（令和6年4月1日環循適発第24040113号・環循規発第24040111号）**

概要

令和6年4月1日から有機エレクトロルミネセンス式テレビジョン受信機（電源として一次電池又は蓄電池を使用しないものに限り、建築物に組み込むことができるように設計したものを除く。）が特定家庭用機器に追加して取り扱われることを受け、「特定家庭用機器一般廃棄物と特定家庭用機器産業廃棄物の再生又は処分の方法として環境大臣が定める方法」（平成11年6月23日厚生省告示第148号）を拡充する旨と拡充の内容が示されています。



通知本文

事業報告

協会の活動

廃棄物処理先進事例調査

- 第39回 調査先 株式会社グリーン ブルーエコノミー研究所
実施日 令和6年3月7日(木)
内 容 SBTiの認証取得及びDX等を通じた脱炭素経営
- 第40回 調査先 UDトラックス株式会社 UDエクスペリエンスセンター
実施日 令和6年4月19日(金)
内 容 次世代トラックの自動化・電動化に向けた取組み
- 第41回 調査先 大栄環境株式会社 伊賀リサイクルセンター
実施日 令和6年5月29日(水)
内 容 メタン発酵(バイオガス発電)施設及び堆肥化施設等と事業スキーム

廃棄物収集作業向上研修会

- 労働安全衛生規則の改正により、①昇降設備の設置・②保護帽の着用・③テールゲートリフターの操作に係る特別教育が義務付けられたことについて、大阪労働局から講師を招聘し啓発。
日 時 令和6年3月8日(金)14時30分
場 所 大江ビル13階第6会議室
参加者数 32名
内 容 講 義 トラックでの荷役作業時における安全対策について
講師 大阪労働局労働基準部安全課
副主任 地方産業安全専門官 手柴 理章 氏
情報提供 処分料金改定等について
説明 大阪湾広域臨海環境整備センター 業務課 副参事 榎 克昌 氏
新任運転手・収集作業員向け動画教材について

なにわサンパイ塾

- 「現在の営業スタイル」を皆様の営業スキルを令和版にアップデートし、収益アップにつながる営業スタイルを学ぶ講義と、社内チームワークを高めるカード演習を実施。
日 時 令和6年3月15日(金)13時30分
場 所 大江ビル13階第6会議室
参加人数 13名
内 容 講 義 現在の営業スタイルについて
演 習 エンゲージメントカード演習
講 師 株式会社トリプルバリュー
チーフサステナビリティオフィサー 出口 健一 氏

OSK-sign(電子契約エントランスシステム)導入説明会(第13次)

- 産業廃棄物処理業者のための契約書の電子化サービス「OSK-sign(電子契約エントランスシステム)」の導入を検討されている方を対象とした導入説明会を実施。
日 時 令和6年5月30日(木)10時00分
実施方法 オンライン

参加者数 3名

内 容 ①概要説明 ②操作説明 ③よくあるお問合せ (FAQ)
④委託契約全般の相談・質疑応答

第12回定時総会 賛助会員PRコーナー

日 時 令和6年6月7日(金) 14時~17時

場 所 スイスホテル南海大阪 8階「浪華の間」前ロビー

参加会員 (五十音順)

岩田行政書士事務所、エコオ株式会社、有限会社山光、有限会社トラックアズマ、
西迫行政書士事務所、株式会社日本トリム

再資源化事業等高度化法に関する勉強会

- 令和6年5月29日に公布された「再資源化事業等高度化法」の概要について、弁護士を招聘し、勉強会を実施。

日 時 令和6年7月4日(木) 15時00分

場 所 協会会議室

参加者数 12名

招聘講師 山田法律事務所 弁護士 山田 浩介 氏

協会の会議

理事会

第59回 令和6年3月27日(水) 15時00分/大江ビル13階第6会議室

- 令和6年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みに係る承認の件
- 入会申込みの件 ほか

第60回 令和6年5月10日(金) 15時00分/大江ビル13階第6会議室

- 第12回定時総会の件
- 令和6年度循環型社会形成推進功労者(産業廃棄物関係事業功労者)等環境大臣表彰候補者推薦の件
- 令和6年度環境衛生功労者の知事表彰候補者推薦の件
- 入会申込みの件
- 青年部長選任の件
- 令和6年度施設見学会実施に係る委託先選定の件 ほか

組織広報委員会

第94回 令和6年3月15日(金) 11時00分/協会会議室

- 令和6年3月度入会審査について
- 令和5年度第2回なにわサンパイ塾開催について
- Clean Life vol.92の発行について

第95回 令和6年4月12日(金) 15時00分/協会会議室

- 令和6年4月度入会審査について
- 令和6年度本会表彰(功労者・優良事業所・優良従事者)候補者選考について
- 令和6年度環境衛生功労者大阪府知事表彰候補者選考について
- 令和6年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰候補者選考について
- 令和6年度事業計画について

- 第96回 令和6年6月26日（水）15時00分／本会会議室
- 令和6年6月度入会審査について
 - Clean Life vol.93発行のについて
 - 令和6年度なにわサンパイ塾の開催について

危機管理委員会

- 第70回 令和6年3月18日（月）15時00分／本会会議室
- 令和6年度労働安全衛生表彰について
 - 令和6年度危機管理委員会事業計画について
 - 廃棄物処理業におけるリスクアセスメント推進研修会 開催結果について
 - 株式会社ジェイ・ポート 樋下社長ご講演「無事故・無災害対策について
- 第71回 令和6年4月25日（木）16時00分／本会会議室
- 令和6年度労働安全衛生表彰について
 - 先進事例調査（サイクラーズ株式会社）について
- 第72回 令和6年7月1日（月）15時00分／本会会議室
- 令和6年度危機管理委員会開催日程について
 - リスクアセスメント推進研修会及びBCP策定啓発セミナーについて
 - 先進事例調査（サイクラーズ株式会社）について

法政策調査委員会

- 第56回 令和6年4月10日（水）15時00分／協会会議室
- 2024年度 事業計画について
- 第57回 令和6年7月4日（木）15時00分／協会会議室
- 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律について

収集運搬部会

- 第78回 令和6年5月21日（火）14時30分／協会会議室
- 令和6年度事業計画について
 - 廃棄物収集作業向上研修会について（令和5年度事業報告）
 - 廃棄物処理先進事例調査について（令和5年度事業報告） ほか
- 第79回 令和6年6月27日（金）14時30分／協会会議室
- 廃棄物収集作業向上マニュアルを活用した新任運転手や収集作業員向け動画教材の作成について
 - 第1回廃棄物不適正処理巡視について
 - 廃棄物収集作業向上研修会について ほか

建設特別部会

- 第21回 令和6年4月4日（木）15時00分／協会会議室
- 再生砕石利用促進の対策について ほか

青年部

- 第86回 令和6年3月21日（木）14時00分／協会会議室
- 廃棄物処理先進事例調査について（報告）
 - 令和6年度さんばいフォーラムについて
 - 令和6年度施設見学会について ほか
- 第87回 令和6年5月16日（木）15時00分／協会会議室
- 令和6年度事業計画について
 - 令和6年度さんばいフォーラムについて
 - 令和6年度施設見学会について ほか

第88回 令和6年6月20日（木）14時30分／協会会議室

- 令和6年度施設見学会について
- 廃棄物処理先進事例調査のレポートについて（確認）
- 令和6年度さんばいフォーラムについて ほか

女性部

第3回 令和6年3月1日（金）15時00分／大江ビル13階会議室+Zoomによるオンライン（ハイブリット開催）

- 兵庫県・大阪府女性部 合同研修会
 - ①「発災前・発災直後・発災後に何をすべきか 災害伝言ダイヤル171を使ってみよう」
 - ②「災害発生時の連絡手段～基礎知識と備え～」

他団体会議等への出席

公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター

許可申請に関する講習会（業務管理）における講師研修会

日時 令和6年4月22日（月）14時00分

実施方法 オンライン

内容 2024年度講習会－業務管理の講義－
2024年度講習会「業務管理」の講義要領及び時間配分について
講師委嘱手続き及び講義終了報告提出のお願いについて ほか

大阪府産業廃棄物不適正処理対策会議

市町村連絡部会・取締対策部会・啓発部会

日時 令和6年5月13日（月）9時00分

実施方法 意見提出

内容 令和6年度大阪府産業廃棄物不適正処理防止推進事業計画（案）
令和6年度大阪府産業廃棄物不適正処理防止推進強化月間事業（6月期）（案）
ほか

大規模災害発生時廃棄物対策近畿ブロック協議会

日時 令和6年6月5日（水）14時15分

実施方法 意見提出

内容 災害廃棄物処理に係る現状及び近畿ブロックにおける令和6年度の取組概要
・スケジュール
令和6年度の協議会における調査検討事項及びモデル事業の詳細
協議会ワーキンググループによる意見交換の実施内容（案） ほか

高度資源循環・デジタル化推進協議会 カーボンニュートラルWG・循環経済WG

日時 令和6年7月3日（水）14時30分

実施方法 オンライン

内容 北九州市の環境政策
「TOYOTA Domotics 土間選別の現場DX」土間選別のデータサイエンス
成長志向型の資源自律経済戦略の実現に向けた制度見直し（案）のご紹介
ネイチャーポジティブとAI ほか

クローズアップ!

1

会長表彰受賞者・受賞事業所のご紹介

弊会では会員のうち、産業廃棄物の適正処理の確保、不法投棄の防止及び資源循環等の取組みに顕著な功績のあった法人又は個人を、また安全衛生活動の推進により労働災害の減少に努めた産業廃棄物処理業者及びその役員・従業員を表彰する制度を設けております。弊会表彰規程に基づき厳正に審査した結果、以下の方々にご受賞されました。誠にありがとうございます。皆様の今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

功労者表彰

福田 勝 氏 建設特別副部長兼組織広報委員
株式会社MFJ 代表取締役

優良事業所表彰

一般部門	RTT株式会社	共和紙料株式会社	株式会社近畿プレス
建設部門	株式会社嶋袋商店	東海環境株式会社	松園建設株式会社



右から 片淵昭人会長、福田勝氏、久永勇氏（RTT株）、中村昌延氏（共和紙料株）、
田代正美氏（株近畿プレス）、嶋袋大三氏（株嶋袋商店）、中島聖智氏（東海環境株）、
小中幸宏氏（松園建設株）

優良従事者表彰

橋本 正英 氏	北口建設工業株式会社
稲井ゆかり 氏	D I N S 関西株式会社
中屋 賢二 氏	大栄環境株式会社
市川 清治 氏	株式会社ケーシーエス
中田 景子 氏	株式会社興徳クリーナー
保田 克哲 氏	大阪廃棄物処理株式会社
久保成一郎 氏	株式会社ジャパン・クリーン・サービス
吉岡 甲二 氏	大幸工業株式会社
石田 浩二 氏	株式会社共英メソナ
加藤 忠宏 氏	株式会社ヒガシトゥエンティワン

安全衛生活動優良役員・従業員表彰

宮 一馬 氏	株式会社ジェイ・ポート
井上 涼太 氏	株式会社浜田



右から 片瀨昭人会長、稲井ゆかり氏、市川清治氏、中田景子氏、小山滋氏(保田克哲氏の代理)



右から 片瀨昭人会長、久保成一郎氏、吉岡甲二氏、石田浩二氏、加藤忠宏氏、宮一馬氏、井上涼太氏

クローズアップ!

2

公益社団法人全国産業資源循環連合会会長表彰のご受賞

公益社団法人全国産業資源循環連合会では、産業廃棄物処理事業に功績顕著な者、産業廃棄物処理業者の模範となり我国の産業廃棄物処理事業に寄与した企業、多年にわたり産業廃棄物処理事業に従事しその業務に精励し他の模範となる者を表彰する制度を設けており、弊社から推薦した下記の方々にご受賞されました。誠におめでとうございます。

地方功労者表彰

小林 一郎 氏 適正処理推進協議会収集運搬副部長
株式会社英翔 代表取締役

地方優良事業所表彰

株式会社関電 L & A 株式会社総環 株式会社ラルス

優良従事者表彰

須見 浩 氏 北大阪清掃株式会社
藤田 英伸 氏 株式会社南海興業
上西 秀人 氏 株式会社大恵



右から 片淵昭人会長、小林一郎氏、谷大智氏（株関電 L&A）、
福田 猛志氏（株総環）、藤中 秀基氏（株ラルス）

クローズアップ!

3

令和5年度産業廃棄物処理における 脱炭素に向けた取組調査

温室効果ガス（GHG）対策に向けた処理業者の取組状況とこれに対する排出事業者の意識や展望を把握し、こうした課題解決に資する情報として整理又は考察したものを提供することで、処理業者がGHG対策に取り組む上での支援やその促進に繋げていくことを目的とした公益財団日本産業廃棄物処理振興センター（JWセンター）実施の机上調査について、令和4年度に引き続き、協力しました。

令和6年3月公表 令和5年度産業廃棄物処理における脱炭素に向けた取組調査報告書
(JWセンターホームページ内)



メールマガジン「Clean Life オンライン」好評配信中！

会員を対象にメールマガジン「Clean Life オンライン」を配信中です。すでに多数の会員の方にご登録いただいておりますが、まだまだ受付中です。配信ご希望の会員の方は本会ウェブサイトでのプライバシーポリシーをご確認のうえ、同意された場合には下記要領に従い、配信先メールアドレスのご登録（無料）をお願い申し上げます。

公益社団法人大阪府産業資源循環協会のプライバシーポリシーの開示
<https://o-sanpai.or.jp/privacy>

なお、メールマガジン配信にご登録をされますと、ファックスによる情報提供は停止されます。予めご了承ください。

【メールマガジン配信先のご登録要領】

1. 次の事項をご記入の上、**office@o-sanpai.or.jp**に送信してください。
 - ①会員の名称
 - ②ご担当者所属・役職・氏名
 - ③電話番号
 - ④配信先メールアドレス（1会員につき1メールアドレスのみの登録となります）
2. 送信時の件名は「メールマガジン配信希望（会員の名称）」としてください。

Clean Life オンラインのバックナンバー

令和6年度

- | | |
|---|--|
| 3月4日 | 4月5日 |
| Vol.725 ■〈大阪府〉石綿に係る事前調査の周知チラシの送付について | Vol.732 ■〈環境省〉「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に伴い排出される廃棄物の処理について（通知）」の一部改正について（通知） |
| 3月5日 | Vol.733 ■当協会ホームページリニューアルのお知らせ |
| Vol.726 ■〈厚労省〉令和6年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について | 4月11日 |
| 3月11日 | Vol.734 ■〈環境省〉特定家庭用機器一般廃棄物及び特定家庭用機器産業廃棄物の再生又は処分の方法として環境大臣が定める方法の一部改正について（通知） |
| Vol.727 ■2024年度「許可・特責講習会」の開催について | Vol.735 ■片山さつき関西スタートアップセミナー2024開催のお知らせ |
| 3月18日 | 4月12日 |
| Vol.728 ■〈環境省〉資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律案の閣議決定について | Vol.736 ■「経済産業省・NEDO Challenge, Lion Battery 2025 発火を防ぎ、都市鉱山を目指せ！」公募開始のお知らせ |
| 3月21日 | 4月24日 |
| Vol.729 ■〈廃棄物・3R研究財団〉二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の公募について | Vol.737 ■OSK-sign（電子契約エントランスシステム）導入説明会開催のご案内 |
| 3月26日 | 5月1日 |
| Vol.730 ■〈全産連〉「令和6年度産業廃棄物処理検定（廃棄物処理法基礎）」開催のご案内 | Vol.738 ■〈厚労省〉令和6年度全国安全週間の実施に伴う協力依頼について |
| 4月1日 | |
| Vol.731 ■〈環境省〉水大環発2402284特定粉じん排出等作業における除じん性能を有する電動工具の使用について（通知） | |

5月7日

Vol.739 ■ 2024年度廃棄物管理士講習会の実施について

5月13日

Vol.740 ■ 〈環境省〉 デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について

Vol.741 ■ 〈環境省〉 中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について

Vol.742 ■ 〈大阪府〉 「大阪府石綿飛散防止対策セミナー」の開催について

Vol.743 ■ 産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2024年1-3月期】について

5月14日

Vol.744 ■ 定時総会「賛助会員展示会」開設について※賛助会員のみ

5月16日

Vol.745 ■ 〈総務省〉 電波利用環境保護に関する周知・啓発活動について

5月17日

Vol.746 ■ 〈海上保安庁〉 海洋環境保全推進月間の実施に伴う協力について

5月22日

Vol.747 ■ 〈環境省〉 第六次環境基本計画の閣議決定について

5月30日

Vol.748 ■ 〈環境科学対策センター〉 「工作物石綿事前調査者講習」の開催について

5月31日

Vol.749 ■ 〈日本労働安全衛生コンサルタント会〉 「エイジフレンドリー補助金」の申請について

Vol.750 ■ 資源循環高度化法（再資源化事業高度化法）の公布（令和6年5月29日付）について

6月4日

Vol.751 ■ 〈環境省〉 「省エネ法・温対法・フロン法電子報告システム」（EEGS）の温室効果ガス任意算定・公表機能リリース、それに伴う各対象事業者向け説明会の開催について

6月10日

Vol.752 ■ 〈産業廃棄物処理事業振興財団〉 「産業廃棄物・汚染土壌排出管理者講習会」の開催について

6月11日

Vol.753 ■ 〈環境省〉 「第12回グッドライフアワード」募集について

6月13日

Vol.754 ■ 〈厚生労働省〉 職場における熱中症の発生状況と「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」実施要綱について

6月18日

Vol.755 ■ 〈国交省〉 令和6年度建設副産物実態調査の実施について※正会員のみ

6月19日

Vol.756 ■ 令和6年度優良認定推進研究会開催のご案内

6月27日

Vol.757 ■ 〈全産連〉 「カーボンニュートラル行動計画」の策定について

6月28日

Vol.758 ■ 〈廃棄物・3R研究財団〉（低炭素関係）省CO₂型プラスチック高度リサイクル設備導入事業等の公募について

7月2日

Vol.759 ■ 〈産業廃棄物処理事業振興財団〉 産業廃棄物処理助成事業について

7月8日

Vol.760 ■ 〈廃棄物・3R研究財団〉（低炭素関係）廃棄物処理×脱炭素化によるマルチベネフィット達成促進事業の公募について

7月9日

Vol.761 ■ 〈環境省〉 デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について

Vol.762 ■ 令和6年度なにわサンパイ塾「工場長サミット」開催について（ご案内）

廃棄物処理先進事例調査

令和6年3月7日（木）14：00より本会青年部会の先進事例調査として神奈川県横浜市にある株式会社グリーン横浜本社・工場を訪問し、脱炭素経営やDXの取り組みに関する事例の説明を受け、木くずやプラスチックのリサイクル工場も見学してきました。



第39回 株式会社グリーン横浜本社・工場

概要

商号：株式会社グリーン
設立：2001年3月
代表者：代表取締役会長兼社長 藤枝慎治
本社：横浜市金沢区鳥浜町17番地3
資本金：5,500万円（2024年3月末現在）
従業員：90名（2024年3月末現在）
事業：木くずリサイクル／廃木材、チップ製造
プラスチックリサイクル／廃プラスチック・フラフ製造
マテリアルリサイクル・ペレット製造
廃棄物コンサルティング

■ 株式会社グーンが取り組む「脱炭素経営」

脱炭素経営とは、企業が温室効果ガスの排出を削減することで、地球温暖化の抑制に貢献する経営戦略。具体的には、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進、製品やサービスの環境負荷の低減などが挙げられる。また、脱炭素経営においては、企業が自主的に設定する温室効果ガス排出削減目標を、科学的根拠に基づいた目標（Science Based Targets、以下SBT）とすることが推奨されており、グーンではSBTの認証を取得した。

脱炭素経営の取り組み例は以下のとおりである。

①使用済みプラスチックを再度製品として生まれ変わらせる

2023年度からの新規事業。マテリアルから燃料化ラインまでを備えており、性状が多岐にわたる製品の受入れが可能。風力による選別、フィルターによる異物除去など最新鋭の設備により、高品質なペレットを製造。

②再生可能エネルギーの利用拡大

電力の再生可能エネルギー導入や、グリーン電力証書の活用を通じ、2022年度より、自社で消費するすべての電力を実質100%再生可能エネルギーとしている。

③温室効果ガスの排出削減目標の設定

国際的な取り組みである、SBT（ScienceBasedTargets：科学的根拠に基づいた目標）への参加を行い、実効的な削減目標を設定。具体的には、2020年度から2030年度までの10年間で、温室効果ガス排出量を42%削減する目標を設定し、各種取り組みを実施。



青年部長挨拶



現場説明風景

■ マテリアルリサイクル設備導入による効果

焼却処理から、リサイクル化への転換が進みつつあるが脱炭素化、資源循環経済の社会を迎え、さらに、マテリアル化（プラスチック原料の再生産）を広げ、プラスチックからプラスチックへの循環ループをつくることを追及しているグリーン。

そんな中、横浜で初のマテリアルリサイクルの設備を整備し再生原料を製造している。

グリーンのマテリアルリサイクルには、4つのポイントがある。

①多品種のプラスチックの受入れ

マテリアルから燃料化ラインまでを備えており、性状が多岐にわたる製品の受入れが可能。

②より高品質な再生ペレットづくり

風力による選別、フィルターによる異物除去など最新鋭の設備により、高品質なペレットを製造。

③排出事業者との連携

製造、販売、物流などの様々な業界の企業とともに、廃棄後の資源循環を考慮し、安定的なりサイクル化を実現。多様な顧客とのマッチングや課題解決などソリューションビジネスも求められている。

④カスケード利用によるゼロ残渣

マテリアルリサイクルでは、その再生工程に適せず、一定量の残渣が発生する。これらの残渣を直接焼却せず、フラフラインに搬入し、石炭代替燃料として活用。こうしたカスケード利用により、外部へ残渣を持ち出すことなく対応ができている。

■ まとめ

産廃業界は人手不足が叫ばれる中、株式会社グリーンでは、今いる人員で業務を回し、生産性を向上させることで、残業時間やコストの削減をし、会社の利益を増大させることを目的にDX推進に取り組まれています。DXの取り組みの一環として、「DX推進室」を設けています。その背景としては新型コロナウイルスの際、様々な対応のためにデジタル化やリモートが急務になったことで、各部署のリーダー、担当を選出。個々の作業の効率化や「働き方」「生活」のアップデートに取り組んでいます。DX取り組みの事例としては、全社のスケジュール共有には「Garoon」、工場の補修や日常点検には「MENTENA」を導入するなど、クラウドシステムを活用し、情報共有をスムーズにしたり業務効率を上げる取り組みを行っています。

「DX推進室」を中心として業務効率化や改善が行われていることが分かり、専門部署やチームを作ることで、システム選定や構築に関わるスピードが早まっていることが、分かりました。



最後に、訪問にあたり、大変お忙しい中、長時間にわたり誠実にご対応、ご説明下さったブルーエコノミー研究所 ニュービジネスグループ北井俊樹様、そして冒頭のご挨拶のためにお出ましいただいた代表取締役会長兼社長 藤枝慎治様に心からお礼申し上げます。 (文責 安井 智哉)

廃棄物処理先進事例調査

令和6年4月19日（金）11：55に本会収集運搬部会の先進事例調査として埼玉県上尾市にあるUDトラックス株式会社UDエクスペリエンスセンターを訪問し、次世代トラックの自動化・電動化に向けた先進的な取組みについて説明を受け、また同社が提供する体験型プログラム「UDエクスペリエンス」に参加することを通じ、その理解と実感を深めてきました。



第40回 UDトラックス株式会社 UDエクスペリエンスセンター

概要 ～世界60か国以上で先進的な輸送ソリューションを提供する日本の商用車メーカー～

商号：UDトラックス株式会社
 設立：1935年12月1日
 代表者：代表取締役会長 伊藤 公一
 代表取締役社長 丸山 浩二
 本社：埼玉県上尾市大字1丁目1番地
 資本金：100億円
 株主：いすゞ自動車株式会社（100%）
 従業員：6,203名（2023年4月1日現在）
 事業：①大型トラックの開発・生産・輸出・販売
 ②中・小型トラックの販売
 ③自動車用部品の製造・販売
 ④トラック・バスの整備・補修部品等の販売
 ⑤ボルボ・ブランド製品の輸入・販売

■ Fujin & Raijinビジョン2030



(センターの総責任者・鈴木芳一様によるご挨拶／左 ディレクター・則岡明仁様によるプレゼンテーション／右奥)

UDトラックス株式会社は、スマートロジスティクスの実現に向けた、次世代技術に関するロードマップ「Fujin & Raijin（風神雷神）ビジョン2030」*を発表している。このロードマップは、深刻化する社会や物流業界の課題（①交通安全と交通渋滞 ②環境負荷 ③高齢化 ④ネット通販の拡大 ⑤コストと効率性 ⑥規制強化 ⑦ドライバー不足 ⑧物流ニーズの変化）解決に貢献するため、次世代技術の要である「自動化」と「電動化」の分野に主眼を置き、大型トラックの特定用途での自動運転や電動駆動における様々なソリューションを提供しようとする2030年までの取組みを示したものである。廃棄物収集運搬業にも大いに関係する、重要な指針として捉えるべきものと思われる。

※「Fujin & Raijin（風神雷神）ビジョン2030」

自動化の取組みはモノを動かす力を象徴する風の神「風神」、また電動化の取組みは電気エネルギーの力を象徴する雷の神「雷神」から着想を得られたものである。この自動化と電動化を軸に、コネクティビティ（繋がるトラック）とデジタル化の進化を通して、輸送をよりスマートにするための取組みを示している。



(UDエクスペリエンスセンター内研修・見学風景 広範にわたる展示物のほか「クオン」のシミュレーターも常設)

物流、廃棄物の収集運搬にかかわらず、今後、「小口配送」に対する需要は、さらに増大していくことが見込まれる。一方で深刻化する排ガス問題やドライバー不足等の課題を解決し、荷主（廃棄物を排出する事業者を含む。）が求めるようなサービスを提供できるトラックを供給していくためには、自動運転と電動化の技術革新がカギになると同社は考えている。

■ 自動化に向けた取組み

1) 自動運転の定義

自動運転は、次の5つのレベルに分けられる。自動運転の監視主体(責任の所在)をドライバーとするものがレベル1とレベル2に区分され、システムとするものがレベル3～レベル5に区分される。

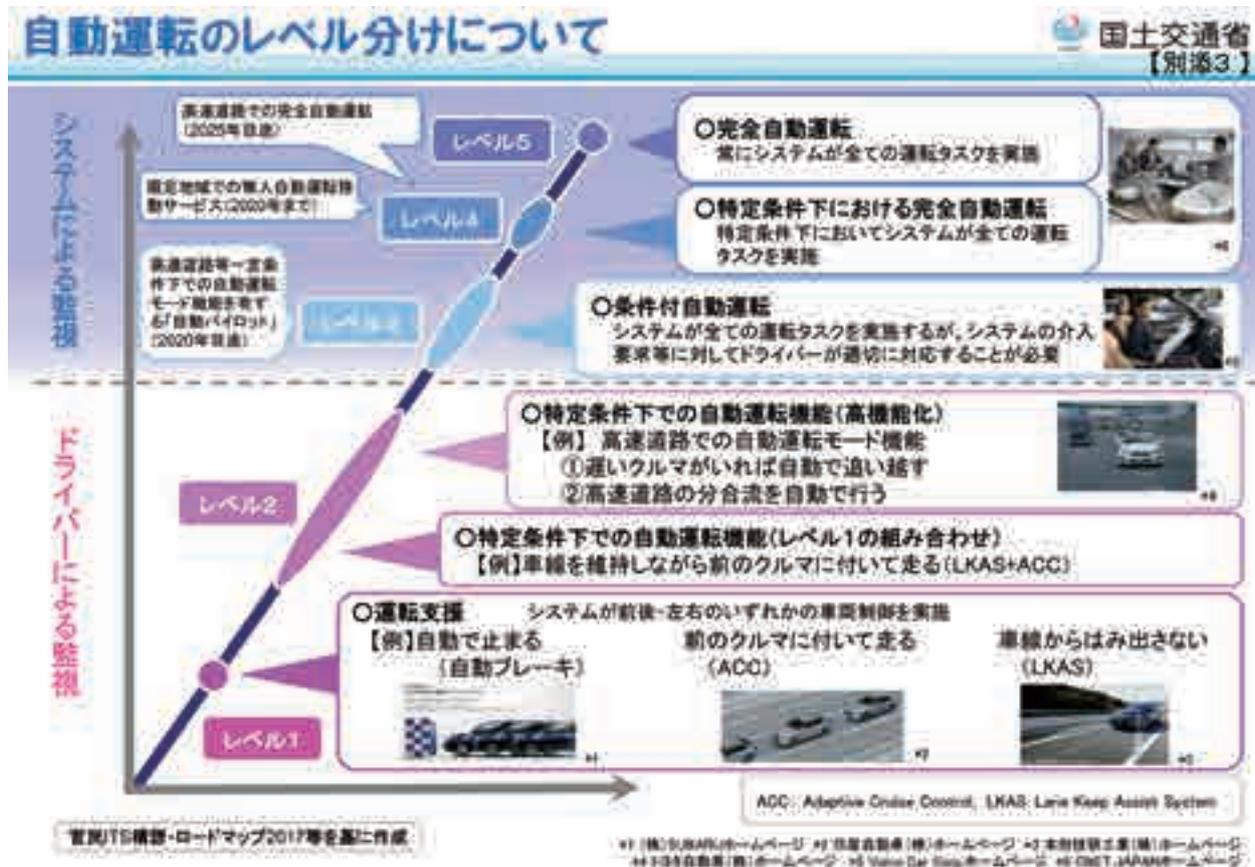


図 自動運転のレベル分け

- レベル1** 運転支援（システムによる前後・左右いずれかの車両制御）
例 自動停止、定速・隊列走行（ACC）、車線維持走行（LKAS）
- レベル2** 特定条件下での自動運転機能
例 ACC+LKAS（レベル1の組合せ）、高速道路での自動追越し・分合流
- レベル3** 条件付自動運転（システムが全ての運転タスクを実施するが、システムの要求に応じてドライバーが適切に対応する前提）
- レベル4** 特定条件下における完全自動運転
例 限定地域での無人自動運転移動サービス、高速道路での完全自動運転
- レベル5** 完全自動運転（常時システムによる全ての運転タスクの実施）

2) レベル4自動運転を活用した輸送スキーム等の社会実装に向けた取組み

①株式会社神戸製鋼所との自動搬送実証実験

2022年8月末～10月末の2月間、神戸製鋼加古川製鉄所内の水砕スラグ運搬コースの一部のルートを使用して実施された。「レベル4限定領域自動運転技術」を搭載した同社大型トラック「クオン」が17tのスラグを積載し、複数の異なる地点を自動搬送することに成功している。また、搬送だけでなく、所定内での停止や搬送物の積卸しといった一連の複雑なオペレーションの自動化も実現している。



(同社大型トラック「クオン」の次世代仕様)

②日本通運株式会社及びホクレン農業協同組合連合会との自動運転実証実験

2019年8月、ホクレン中斜里製糖工場の周辺の公道から工場入口を経て、てん菜集積場から加工ライン投入口へ横持ちする約1.3kmの運搬ルートを、同社大型トラック「クオン」をベースにして開発された車両その他各種レベル4自動運転技術を駆使し時速20kmで走行することに成功している。なお、この実証実験では、悪天候や高い建物の近く等GPS信号の受信状態が悪い場所においても自己車両の位置を測定し、高精度で自動走行できる技術も導入された。

③高速道路隊列走行実験

経済産業省及び国土交通省が実施している「高速道路でのトラック隊列走行プロジェクト」*に参加し、車間通信や車線維持支援システム等の必要な技術において、安全性と精度をさらに高める開発を実施している。

※「高速道路でのトラック隊列走行プロジェクト (RoAD to the L4)」

「トラック隊列走行の社会実装に向けた実証」(経済産業省2016～2020年度)を踏まえ、物流の担い手(ドライバー)不足の解消や物流効率の向上に向け、大型車メーカー各社及び物流事業者をはじめとする関係者と取り組み、自動走行技術を用いた幹線輸送の実用化により2026年以降の社会実装を目指すプロジェクトをいう。このプロジェクトでは、自動運転レベル4等の先進モビリティサービスの実現・普及に向け、研究開発から実証実験、社会実装まで一貫した取組みが行われる。

なお、以上と並行して「高速道路IC直結次世代基幹物流施設」(事業主：三菱地所株式会社)が想定・計画されている。この施設は、三大都市圏を繋ぐ物流網である新名神高速道路の宇治田原IC(仮称)より、基幹物流に直結した専用ランプウェイを設けることで、完全自動運転トラックや後続車無人隊列走行の受入れを可能とし、これら次世代のモビリティが高速道路から一般道に下りることなく利用できるものである。また、現在実用化されているダブル連結トラックの受入れも可能とするものである。

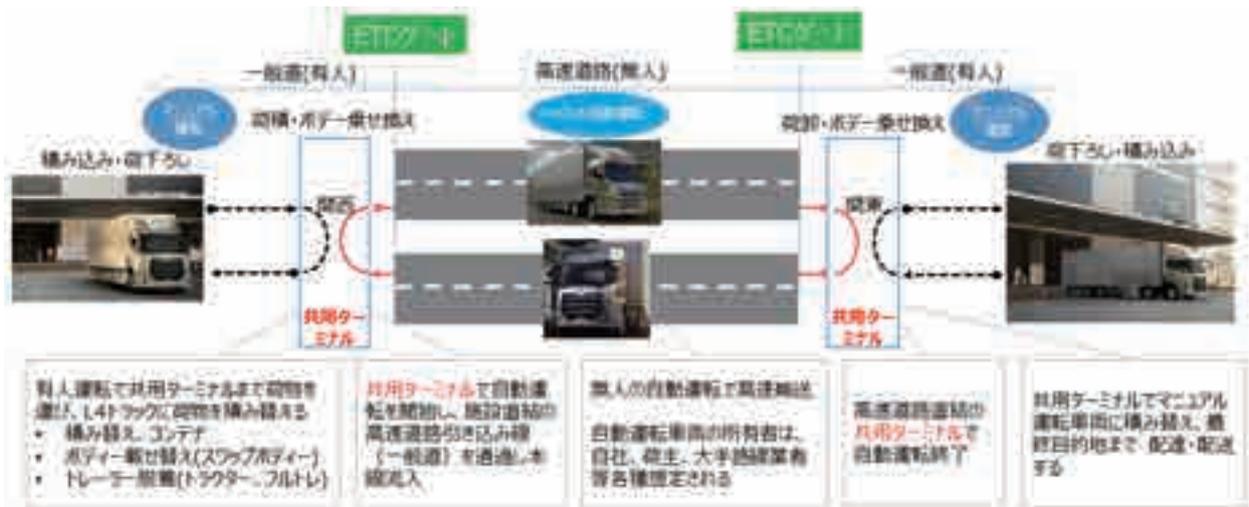


図 レベル4自動運転を活用した輸送スキーム

■ 電動化に向けた取組み

電動車開発において下記の歴史を歩んできた同社は、2030年までのフル電動トラック量産化に向けて、エネルギー効率や積載量、航続距離、静粛性を最大限に確保したゼロエミッションの大型トラック開発に取り組んでいる。

- 【日産ディーゼル期】 2000年 キャパシタハイブリッドバス
2002年 キャパシタハイブリッド
2004年 CNGキャパシタハイブリッド
- 【Volvo グループ期】 2015年 バッテリー電動車
2018年 風神雷神ビジョン2030
2019年 ハイブリッド
- 【いすゞグループ期】 2021年 次世代型環境対応車の開発（～2030年）

このように電動化を推進できるのは、デジタル化をベースとしたコネクティビティ技術によるところが大きい。同社では、2006年から開始した上記の技術により、国内及び一部海外で走行する約8万台の関係車両が繋がっており、2025年までには15万台にまで増加させることを目指している。ユーザーの運行状況から収集したデータを解析することで、その車両の稼働率向上、運行管理、品質や技術革新のために利用している。



(UDエクスペリエンスセンター内研修・見学風景 則岡様から電動化技術やバッテリーリサイクル等の解説/右)

■ UDエクスペリエンス

「UDエクスペリエンス」とは、同社が提供する体験型のプログラムのことである。同社の考えや取り組み、技術等に対する理解を深めるため、一般に広く体験してもらうことを目的としている。

プログラムは、3つのパートで構成されている。

①センター見学

創業時から脈々と受け継がれていく、モノづくりへの想いを紹介。これまでから、この先の時代の求めに応える先進的なソリューションの数々を理解することができる

②工場見学

品質へのこだわりと生産性の追求。同社ならではの生産工場を案内。

⇒同社大型トラック「クオン」の生産工程（主要7工程）映像



③試乗

本質を追求したトラックのフルラインナップを、実車で体験。最新のトラックの特徴を確認できるよう、専門のスタッフから全面的なサポートを受けられる。

■ まとめ

この度の訪問により、UDトラックス株式会社が考える「スマートロジスティクス」について、理解を深めることができたように思います。それは、効率的で生産性の高い、安心かつ人に優しい、持続的な物流や廃棄物の収集運搬であり、IoT・AI・ICT技術の進歩によって実現するスマート社会に不可欠な社会インフラとなるものです。未来の大型トラックは、人々の暮らしの中で中心的な役割を担い、人と人、人とインフラ、地方と都会を繋ぐことでしょう。



最後に、訪問にあたり、大変お忙しい中、長時間にわたり誠実にご対応、ご説明くださったUDエクスペリエンスセンター総責任者の鈴木芳一様、ダイレクターQuon商品戦略担当の則岡明仁様、また遠方から駆け付けてくださった近畿地域阪和支社長の中尾諭様、同大阪湾岸南地域営業部地域統括部長の田畑智成様、同カスタマーアドバイザーの橋口和広様に、心からお礼申し上げます。（文責 龍野 浩一）

PR

いつの間にか 回収量が減っている！



担当営業は
何をしてるんだ！？ 他社に取られて
いるんじゃないか？

顧客の困り込みに課題はありませんか？

- ✓ いつの間にか回収量が減り、解約になっている！
- ✓ 年に数回、大口の回収依頼があったが、いつの間にか来なくなった
- ✓ 毎月回収はあるけど、契約当初と比べると徐々に減少している…
- ✓ いつ他社に取られるかヒヤヒヤしている
- ✓ 担当営業がちゃんとフォローできているのか怪しい！

クラウドス

産廃業者専用クラウドシステム『**CLOUDUS®**』が解決！

＼ 特許取得・業界初の機能を搭載 ＼

排出事業者からの
回収量・頻度の減少を
自動でお知らせ！

特許
取得

顧客の状況変化を
早急にキャッチ



解約を未然防止



顧客フォローを
サポート

詳しい機能は裏面へ >>

新規入会会員紹介

令和6年3月～令和6年6月に入会した会員

正 会 員	株式会社 ワイマックス			
	代 表 者	大 和 大 司		
	住 所	〒587-0051 大阪府堺市美原区北余部314-1		
	電 話 番 号	072-363-0188	F A X 番 号	072-363-0180
	業 務 内 容	産業廃棄物収運運搬業		

賛 助 会 員	株式会社 湖南環境リサイクルセンター			
	代 表 者	西 村 忠 浩		
	住 所	〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3-6-13		
	電 話 番 号	0748-77-8828	F A X 番 号	0748-77-8820
	業 務 内 容	産業廃棄物中間処理業(破碎、圧縮)		

退会会員 ————— 令和6年3月～令和6年6月に退会した会員

正 会 員

兼杉運送(株)

山高運輸(株)

賛助会員

(株)ワイズガーデン

会員メリットのご紹介

廃棄物処理に関する個別相談を優先的に承っております。ご来所の場合はあらかじめ予約していただくとスムーズです。お電話でも相談に応じておりますのでお気軽にどうぞ。

会員は、公共工事を発注者から直接請け負おうとする建設業者が必ず受けなければならない経営事項審査（経審）の加点（20点）対象です。審査に必要な会員の証明書の発行を希望される方は弊社までお問合せください。

会員は廃棄物管理士講習会の受講料が半額になります。その他の弊社主催のセミナーやイベントも無償又は割引が適用されます。

	入会金	会費
正会員	30,000円	収集運搬業 10,000円/月 中間処理業・最終処分業 15,000円/月 ※正会員は半年分ずつ前納
賛助会員	30,000円	50,000円/年 ※一年分を前納

令和6年7月10日現在で正会員268社、賛助会員53社の加入があります。弊社主催のセミナーやイベントに参加され、知識習得のみならず同業者間の繋がり作りにも役立てていただいております。

入会について詳しくお知りになりたい方は弊社までお問合せください。

電話 06-6943-4016

Member

会員紹介

Information

株式会社 浜田 京都PVリサイクルセンター

C O M P A N Y P R O F I L E



代表取締役
浜田 篤介

インタビュー

代表取締役 濱田 篤介
 本 社 大阪府高槻市真上町2-2-30
 京都PVリサイクルセンター 京都府八幡市下奈良小宮4-2
 事業内容 産業廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物中間処理業
 金属くず事業
 解体工事事業
 エネルギーソリューション事業
 U R L <https://www.kkhamada.com/>



沿革

昭和48年11月 浜田電気工業株式会社のスクラップ部門を分社、株式会社浜田設立
 昭和50年6月 金属くず業（大阪府）許可、古物商（大阪府）許可取得
 昭和53年8月 一般建設業（とび・土工事業）許可取得
 昭和54年9月 大阪府産業廃棄物収集運搬業許可を取得。他府県は随時取得
 平成5年12月 大阪府産業廃棄物収集運搬業の変更許可申請（積替え保管施設の設置）
 平成11年2月 大阪府廃棄物再生事業者登録（金属くず）
 平成11年7月 一般貨物自動車運送事業許可取得
 平成15年1月 大阪府産業廃棄物処分業許可取得
 平成15年6月 バッテリーのリユース業（バッテリーフロー長寿）開始
 平成18年9月 ISO14001認証取得
 平成20年8月 東京営業所（現：東京支社）開設
 平成21年11月 一般建設業（電気工事業）許可取得
 平成22年1月 特定建設業（建築工事業、とび・土工事業）許可取得
 これに伴い一般建設業（とび・土工事業）失効
 平成24年9月 ISO14001認証更新取得
 平成24年11月 東京リサイクルセンターオープン
 東京支社開設（東京営業所と東京リサイクルセンターを統合、支社に格上げ）
 平成28年4月 京浜島エコロジセンター開設
 平成28年8月 ソリューション開発センター開設

INTERVIEW

令和3年8月 京都PVリサイクルセンター（KPRC）（京都府八幡市）開設
令和4年1月 大阪本社を高槻市芥川町から高槻市真上町に移転
令和4年8月 九州出張所（福岡県北九州市）開設
令和5年4月 丸紅㈱と共同でリクシア㈱を設立

使用済み太陽光パネルの2R事業を展開

—御社は当コーナーでは2回目の登場となりますが、今回は近年進めている太陽光パネルの循環事業についてお伺いします。

濱田：当社の太陽光パネル事業の中心となるのは、リユース・リサイクルの2Rサービスです。取り扱い実績はサービス開始からの累計で、リユースはおよそ12万枚、リサイクルではおよそ5万枚に達しています。

そもそもは、幹部候補生研修として新事業提案を募った中に、太陽光パネルリサイクルに関する案があったことが取り組みのきっかけでした。将来、パネルが大量廃棄される懸念があるとのことで、それならばいち早くやってみようと2014年から検討を開始したのです。ちょうど、そのタイミングで募集していたNEDO（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構の「太陽光発電リサイクル技術開発プロジェクト」の「低コスト分解処理技術実証」に、太陽光パネル製造装置メーカーの㈱エヌ・ピー・シー（東京都台東区）とともに参画することとなり、同社が開発したホットナイフ式のパネル分離装置を当社大阪工場に設置して3年半ほど研究をしました。その最中の2017年、先行して事業化を進めようとホットナイフ式パネル分離装置を当社京浜島エコロジセンター（東京都大田区）に導入。太陽光パネル専用としての中間処理として国内初の許可を取得し、事業化を実現したわけです。

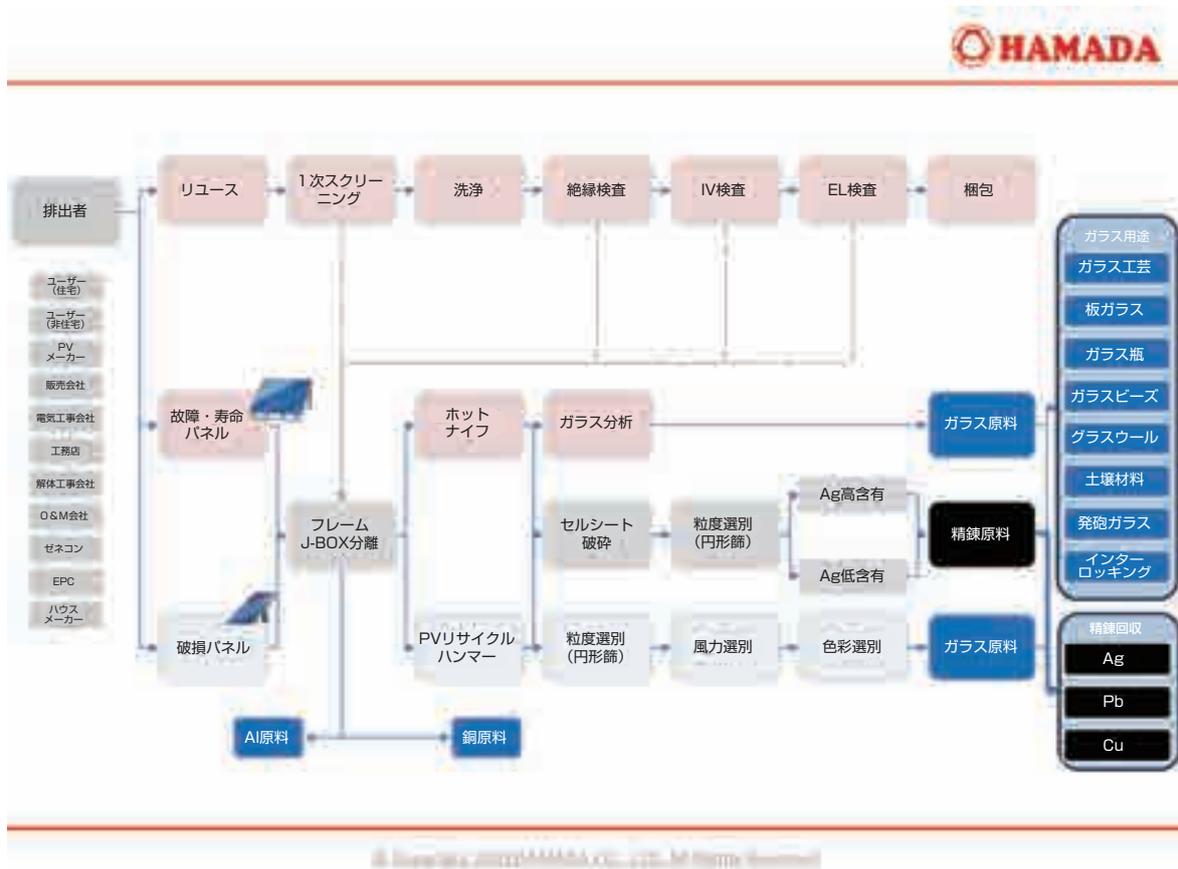
一方で、足元のリサイクルニーズはわずかなもので、災害などで被災した損壊パネルなどが中心となり、それだけではビジネスになりにくいのが実状です。むしろ、発電所への増設やカーボンニュートラル志向によりリユースパネルのニーズが高く、リユースとリサイクルを事業の両輪として事業展開しています。

—そうした展開のなかで新設したのが、こちらの太陽光パネルリサイクル専門工場「京都PVリサイクルセンター」（京都府八幡市）ですね。

濱田：ええ。このセンターは2018年ごろから設計を始め、2020年に竣工しました。先ほどお話したように、当初装置を導入したのは京浜島エコロジセンターですが、他にも多様な資源を扱っていますから、どうしても手狭になってしまいます。そこで、本格的なリサイクル工場を作ろうと、同時並行で用地選定や導入する装置などの企画を詰めていきました。立ち位置としては、京都PVリサイクルセンターは当社パネルの事業の中核拠点として、京浜島エコロジセンターは首都圏の見学者を迎え入れるショールームと、役割を分けた形ですね。昨今はパネル循環の社会システムに向けた関心が高く、京浜島には省庁関係者や政治家の皆さんをはじめさまざまな方が見学にいらっしますよ。

INTERVIEW

太陽光パネル事業の中核拠点を整備



リユース・リサイクルフロー

——では、京都PVリサイクルセンターについて教えてください。

濱田：当センターは敷地面積696.75㎡、太陽光パネルのリユース・リサイクルに特化した工場として整備しました。リサイクルで扱うのは結晶シリコン型パネルで、カバーガラスが割れていない健全なパネルはもちろん、ガラスが割れた破損パネルの処理も可能な施設となっています。また、中古パネルの保管場所も備え、約4000枚のリユースパネルを在庫できます。



取材に同席いただいた
同社環境所リユース研究所
浪越悠介課長

導入している装置としては、パネルの枠と端子ボックスを外すアルミフレーム分離装置（自社開発）、続いてパネルガラスとシリコンセルや回路などのセルシート部分を切り離すホットナイフ式ガラス分離装置（㈱エヌ・ピー・シー）

（写真1）のほか、昨年には割れガラスとセルシートを分離するPVリサイクルハンマー（㈱チヨダマシナリー）を導入しました。加えて、分離後のセルシートの金属成分、特に銀を濃縮するために粉碎機（ダイコー精機㈱）と振動ふるい機も備え、回収資源の高付加価値化を図っています。（写真2）

INTERVIEW

リユースについては、まず現場での発電データをもとに一次スクリーニングをして、故障していないことを確認します。その後は、委託先でパネルを洗浄したうえで、安全性を確かめる絶縁検査、出力を確認するIV検査、目に見えない破損などをチェックするEL検査を経て、商品として販売しています。検査そのものは、メーカーで新品パネルを出荷する前に行うものに準拠していて、このレベルの検査をしているのは当社が大手商社の丸紅(株)と合併で設立したリクシア(株)しかありません。

—さらに、新たな技術開発を進めているとも聞いています。

濱田：太陽光パネルのリサイクルでは、重量の7割を占めるガラスの価値を高めることがポイントとなっていて、他のリサイクラーにも共通する課題です。当社でも、ガラスをより価値あるものにしようとさまざま試行錯誤をしている最中ですね。

例えば、ホットナイフ式で処理したガラスにも接着用の樹脂が残っているのですが、これを定量評価するだけでなく、ウォータージェット工法で洗浄することにより、さらに少なくしてガラスの純度を上げる実験をしています。また、高付加価値化の一環として、パネルガラスをガラス工芸品の材料に使えないか、というトライアルも進めています。実際にガラスや風鈴などを工房の方に作っていただきましたが、成分としては工芸品にはあまり向いていないとのことで、どうにか成分を調整できないかと材料研究をしています。



(写真1) ガラスを割らずにガラス/EVA(樹脂)とセルシートをきれいに分離



(写真2) 銀を回収するためにセルシートを0.87mm以下まで粉砕

INTERVIEW

大量廃棄時代に備え業界内外との連携構築へ

—先進的な取り組みですが、現在の太陽光パネル循環市場の状況は？

濱田：リユースからお話をすると、2019～2020年ころは、災害が多く保険対応などで引き合いが強かったほか、海外のニーズも高く、国内外ともに販売が進みました。しかしながら、最近では中国の過剰生産により安価なパネルが流通していることもあって、経済的な価値だけでリユースパネルが売れる状況ではなくなりつつあります。それを踏まえ、現在はRE100^{*1}やZEB^{*2}などにリユースパネルを組み合わせるといった、より環境価値の高いスキームを構築することで、志の高い顧客をつかんでいくことに注力しています。

一方のリサイクルに関しては、メーカーの在庫品処分や災害による被災パネルの処理、また発電所の張り替えで排出されるものなどが中心で、市場にリサイクルニーズはほとんどないのが実状です。環境省などの排出予測でも2035年ごろに一端のピークを迎えるとされており、その意味では“10年後からのビジネス”という感覚ですね。

—先を見た取り組みという意味では、業界内外との連携にも積極的です。

濱田：先ほど話題に出たリクシアの設立もそうですが、やはり、来るべき大量廃棄時代を考えたときに、個社で立ち向かうには限界がある。そこで、我々リサイクル業界だけでなく、丸紅のような商社も含めてルールづくりを進め、健全なマーケットを作っていくことが必要不可欠だと考えているのです。2022年に立ち上げた（一社）太陽光パネルリユース・リサイクル協会についても同様で、各地でパネルリサイクルに取り組む皆さんに参画いただいておりますが、健全な競争をしつつみんなで作っていく場を作ろうという思いがあります。

太陽光パネルリサイクルは、まだまだビジネスとして成り立つ分野ではありません。ただ、今後の社会課題になるものですから、いざ大量排出が始まったときに対応できるよう努力して参ります。

—本日はありがとうございました。



取材した組織広報委員会メンバーと記念撮影

- ※1 企業が自らの事業の使用電力100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブ
- ※2 Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

今後のスケジュール

優良認定推進研修会

令和6年7月29日(月) 14時00分～16時30分 協会会議室

- ・新法「再資源化事業等高度化法」(令和6年5月29日公布)についての解説
- ・電子manifestoの運用
- ・エコアクション21認証登録制度
概要説明(2017年版ガイドライン、メリット等) GP(集合スクール)等の案内
- ・質疑応答・相談

施設見学会

令和6年8月2日(金)～3日(土)

(株)リヴァックス(兵庫県西宮市) 阪神間初の都市型商用バイオガス発電施設
(株)明和クリーン山城事業所(徳島県三好市) 収運から最終処分まで一貫体制で処理

OSK-sign 導入説明会

令和6年8月26日(月)、11月28日(木) オンライン(ZOOM)

産業廃棄物処理の電子契約の導入をご検討中の企業に向けて本会が提供する電子契約サービスに関する説明。

なにわサンパイ塾

令和6年9月24日(火) 15時00分 大阪市中央区農人橋1-1-22 第6会議室

産業廃棄物処理業界に従事する方の日常業務で生じる疑問や課題等を参加者同士で意見交換を行い、他社の取組みや問題解決方法を学び、相互の資質向上を図る。今回は「工場長サミット」と銘打って、処理施設の工場長や管理者、責任者が対象。

廃棄物管理士 スキル向上セミナー

令和6年11月19日(火) 13時30分
大阪産業創造館 5階研修室A・B

廃棄物管理士が対象のセミナー。
廃棄物処理法の基礎の整理。

さんぱいフォーラム

令和6年11月22日(金)
大阪府立労働センター
大ホール(エルシアター)

詳細は現在検討中につき、決まり次第本会HPでご案内。

詳細は本会HPの新着情報をご覧ください。また状況によっては変更が生じます。

BACK

バックナンバーのご案内

NUMBER

弊会HPで全号公開中

クリーンライフ

第87号（令和4年7月28日発行）

- ①廃棄物熱回収施設設置者認定マニュアルの改訂について
- ②「バイオマス発電燃料等に関する廃棄物該当性の判断事例集」の更新について
- ③リチウム蓄電池等処理困難物対策集の公表等について
- ④感染性廃棄物処理マニュアルの改訂について

第88号（令和4年11月28日発行）

- ①プラスチック資源循環促進法の施行について
- ②サル痘患者の発生を受けた感染性廃棄物の取扱いについて
- ③PFOS及びPFOA含有廃棄物の処理について
- ④産業廃棄物処理業者を対象とした令和4年度政府支援策について

第89号（令和5年3月24日発行）

- ①地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行等について
- ②石綿障害予防規則の一部を改正する省令の施行について
- ③廃エアゾール製品等の排出時等の事故防止のための周知徹底について
- ④専ら再生利用の目的となる廃棄物の取扱いについて

第90号（令和5年7月25日発行）

- ①デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について
- ②専ら再生利用の目的となる廃棄物の取扱いについて
- ③「災害時における石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル」の改訂について
- ④新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴うガイドライン等の取扱いについて

第91号（令和5年11月27日発行）

- ①廃棄物処理施設整備計画
- ②廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針
- ③廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について

第92号（令和6年3月22日発行）

- 特集 さんぱいフォーラム2023 終了報告
－災害時における廃棄物対策の整備と資源循環の推進に向けた取組み－

廃棄物法制等普及促進シリーズ

廃棄物法制等普及促進シリーズVol.4 第2版 2014年12月1日発行
●産業廃棄物処理業におけるヒヤリ・ハットの事例分析

廃棄物法制等普及促進シリーズVol.5 第3版 2019年3月1日発行
●廃棄物収集作業

廃棄物法制等普及促進シリーズVol.10 第2版 2019年11月1日発行
●産業廃棄物処理業に関するBCP策定ガイドライン

廃棄物法制等普及促進シリーズVol.12 初版 2017年12月1日発行
●廃棄物処理先進事例調査報告書

廃棄物法制等普及促進シリーズVol.14 初版 2023年11月1日発行
●資源循環の推進を目指しSDGsの視点で考える（さんぱいフォーラム2019-2022実施報告書）

公益社団法人
大阪府産業資源循環協会の

分かりやすく
コンパクト

必携の
一冊

よくわかるシリーズ1

産業廃棄物の処理の委託をするときに不可欠な manifests のしくみを分かりやすく解説！本冊子では manifests の書き方や各伝票の運用方法を記載例、フロー図などを駆使しながら説明しています。巻末には manifests についてよく質問される事柄を Q&A 方式で掲載！産業廃棄物の処理を委託する方、される方には必携の一冊です。



よくわかるシリーズ2

産業廃棄物を運搬するときに、守らなければならない処理基準を中心に解説！収集運搬車両の表示板、積替保管する場合の基準、施設（車両）の使用権限から大阪府流入規制など、収集運搬において必要となる事柄をコンパクトに説明しています。巻末には収集運搬についてよく質問される事柄を Q & A 方式で掲載！産業廃棄物の収集運搬をされている方には必携の一冊です。



よくわかるシリーズ3

許可の有効期限の延長など、産廃処理業者にとって数々のメリットがある優良産廃処理業者認定制度を分かりやすく解説！優良認定を受けるための5つの基準を説明するだけでなく、過不足なく申請事務を行えるよう、チェックリストも収録しています。巻末には優良産廃処理業者認定制度についてよく質問される事項を Q&A 方式で掲載！優良産廃処理業者の認定を目指されている方には必携の一冊です。



よくわかるシリーズ4

これは産業廃棄物か一般廃棄物か？産業廃棄物の中のどの種類になるのか？など、廃棄物の適正処理の基本となる考え方や判断基準を中心に解説！廃棄物の取扱説明書として必携の一冊です。ふだんゴミ出しでお困りの一般の方々も、ぜひお読みください。



よくわかるシリーズ5

他業種にくらべ圧倒的に労働災害が多い廃棄物処理業では、廃棄物の適正な処理だけでなく、安全な処理も求められます。本書は産業廃棄物の処理における労働災害の未然防止徹底を目的に作成した一冊です。「労災ゼロ」を目指して、ぜひご活用ください。



編集後記

昨年10月、全国産業資源循環連合会青年部協議会による第12回全国大会が九州は沖縄の地で行われました。4年ぶりになる全国大会は500名（登録数725名）を超える有志が集まり大いに盛り上がりを見せました。2021年行われるはずであった同大会が4年と言う長きに渡る紆余曲折を経て、過去最多の動員（登録）数を叩き出し、そのバトンは今年、九州、沖縄から近畿、大阪へとつながります。

当初の大会実行委員長は沖縄県青年部の結城和昭（ゆうきかずあき）、44才。奇しくも私と同じ年であり2017年度には同じ各府県を背負う青年部会長という立場でありながら、40歳まで活動を許された他団体でも友好を深めてまいりました。同齡、同職、同役と言う立場もあり深く結びつきを感じていた友から引き継ぐ大会は、自分自身を大いに奮い立たせるチカラとなり大阪青年部にも伝播していくものと考えます。

過去の大会でも単なる偶然ではなく、実は目に見えないストーリーが存在し、それぞれの想いを乗せて引き継がれて行く。そのような全国大会を継承し、さらに磨きをかけ近畿二府四県を1つにより良い大会にすることをお約束します。ご迷惑をおかけすることもあるかも知れませんが青年部一同、精一杯努めてまいりますので親会の皆さまのご協力のほどよろしくお願いいたします。

平尾 道哉

新「メール会員サービス」のご案内

本会のイベントやセミナーを中心に厳選した情報を随時お伝えするメルマガを新たに発行いたします。会員・非会員問わず無料でご利用いただけますので、配信ご希望の方は以下の要領でお申込みください。

なお、正会員・賛助会員限定メルマガ「**れん楽網 Clean Life オンライン**」はこの新サービスとは別で引き続きご利用いただけます。

申込先アドレス news@o-sanpai.or.jp

件名 メール会員サービスの申し込み

本文 ① 氏名 ② 所属企業・団体名 ③ メールアドレス ④ 電話番号

Clean Life vol.93

編集 公益社団法人 大阪府産業資源循環協会
組織広報委員会

委員長	高好健二	委員	北本かおり
副委員長	田中公治	委員	高田実佐大
副委員長	片渕則人	委員	平尾道哉
委員	伊地知宏徳	委員	福田英克
委員	伊山雄太	委員	福田勝
委員	大津佳之	委員	山口玉緒
委員	尾崎正孝	事務局	福原睦美

産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の許可申請に関する講習会（新規・更新）
特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会

2024年度 オンライン講習会試験日・対面講習会開催日 近畿地区日程表

受講料	オンライン 対面	新規				更新		特別管理産業廃棄物 管理責任者
		産業廃棄物 収集運搬課程	産業廃棄物 処分課程（※1）	特別管理産業廃棄物 収集運搬課程	特別管理産業廃棄物 処分課程（※2）	収集運搬課程	処分課程（※3）	
		¥25,300	¥39,600	¥37,400	¥56,100	¥16,500	¥20,900	¥13,200
		¥29,700	¥48,400	¥46,200	¥68,200	¥19,800	¥24,200	¥13,750
2024年 4月						兵庫会場： 24日(午前)25日(午前)		兵庫会場： 24日(午後)
5月	兵庫会場： 28日(午後)		兵庫会場： 29日(午前)			大阪会場： 21日(午後)22日(午前) 兵庫会場： 28日(午前)		大阪会場： 21日(午前)22日(午後)
6月	大阪会場： 19日(午後)					大阪会場： 18日(午後)19日(午前)		大阪会場： 18日(午前)
7月	京都会場： 3日～4日(対面) 兵庫会場： 25日(午前)			兵庫会場： 25日(午後)	兵庫会場： 25日(午後)	京都会場： 5日(午前) 大阪会場： 10日(対面) 兵庫会場： 24日(対面)		大阪会場： 11日(対面)
8月		和歌山会場： 8日(午前) 大阪会場： 20日～ 23日(対面) 京都会場： 23日(午前)				和歌山会場： 7日(対面) 京都会場： 22日(対面)	和歌山会場： 8日(午前) 京都会場： 23日(午前) 兵庫会場： 27日～ 28日(対面)	和歌山会場： 8日(午後) 京都会場： 23日(午後)
9月	大阪会場： 19日(午前) 奈良会場 25日(午前)		奈良会場： 26日(午前)			大阪会場： 19日(午後) 兵庫会場： 25日(対面) 奈良会場： 25日(午後)	奈良会場： 26日(午前)	兵庫会場： 26日(午前)
10月	大阪会場： 3日(午後) 兵庫会場： 8日～9日(対面)		滋賀会場： 24日(午前)	大阪会場： 16日～ 18日(対面)		大阪会場： 4日(午前) 滋賀会場： 24日(午後)	滋賀会場： 24日(午前)	大阪会場： 3日(午前)4日(午後) 滋賀会場： 23日(対面)
11月	大阪会場： 6日～7日(対面) 京都会場： 14日(午前)					京都会場： 14日(午後) 奈良会場： 20日(午後)		京都会場： 13日(対面) 奈良会場： 20日(午前)
12月	兵庫会場： 4日(午前)				大阪会場： 9日～ 13日(対面)	兵庫会場： 4日(午後)		兵庫会場： 3日(対面)
2025年 1月	大阪会場： 15日～16日(対面) 滋賀会場： 29日(午前)					滋賀会場： 29日(午後)		滋賀会場： 30日(午前)
2月	和歌山会場： 6日(午前) 大阪会場： 14日(午後)			大阪会場： 14日(午前) 京都会場： 20日(午後)	大阪会場： 13日(午後) 京都 20日(午後)	和歌山会場： 6日(午後) 兵庫会場： 18日(対面)19日(午後) 京都会場： 19日(対面)	大阪会場： 13日(午前)	兵庫会場： 19日(午前) 京都会場： 20日(午前)
3月						大阪会場： 5日(対面)		大阪会場： 6日(対面)

(※1) 新規産業廃棄物処分に追加して、新規収集運搬を受講することができます。

(※2) 新規特別管理産業廃棄物処分に追加して、新規特別管理産業廃棄物収集運搬を受講することができます。

(※3) 更新処分に追加して、更新収集運搬を受講することができます。

(午前)・(午後)：会社やご自宅から、事前にオンラインで「講義」の動画を視聴し、「修了試験」は上記日程表に記載した試験会場に会場して受験する2段階形式の講習会です。

(対面)：上記日程表に記載した会場で、「講義」と「修了試験」を受ける対面形式の講習会です。

講習会の申込はインターネット申込みのみです。

詳細は講習会主催者のJWセンターのサイト <https://www.jwnet.or.jp> をご覧ください。

